

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 A-4 国語

「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」

【講師】 筑波大学附属小学校 教諭 青木 伸生 先生

7月28日（金）に筑波大学附属小学校の青木先生をお招きし、研修講座「国語」を実施しました。伊賀市だけでなく、他市からも多数の申込をいただき、約100名の先生が受講をしました。

今年度も物語文と説明文の教材をもとにして、模擬授業を通して、具体的な発問、板書の書き方、授業展開、教材研究の視点などについて学びました。今回は、教材研究をするときや授業を組み立てる時に意識するとよい3本柱について紹介します。

（説明文の3本柱）

- ①何が書かれているか。（内容把握）
- ②どのように書かれているか。（かきぶり）
- ③なぜ、そのように書いているのか。（筆者の意図）



（物語文の3本柱）

- ①何がどう変わったのか。（中心人物の変容）
- ②いつ変わったのか。（変わり目またはクライマックス）
- ③なぜ、変わったのか。（主題にせまる）



授業では、「数えさせること」で内容理解や段落のつながりなど全体像をとらえるようにし、「選ばせること」で読みを深めていくことが大切であることを改めて学びました。また、これらの活動は、個々の考えにズレが生じ、対話的な学びが生まれることも分かりました。本講座で学んだことを各校・園で還流していただきますようよろしくお願いいたします。

アンケートより 【一部抜粋】

- ・教師の教材研究を子どもの手柄にするというお話が印象に残りました。教師の一方的に教え込むような授業になってしまっているので、発問を変えることで子どもの考えを引き出せるようにしたいと思いました。そのためにはどれだけ教師が教材を読み込めるかが大事になってくると思いました。（小）
- ・説明文と物語文を進めるときの基本を振り返ることができました。説明文は、つい単調になってしまい、子どもの気づきを待たずに進めてしまうこともあります。中学生になると余計そうになってしまいがちなので気をつけたいと思います。（中）